

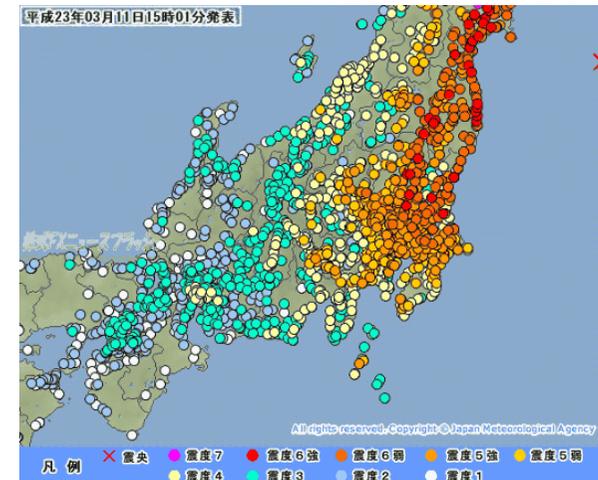
# 東北地方太平洋沖地震における 全日本病院協会の活動



平成23年9月13日

# 1-1. 震災の概要

- 日時: 2011年3月11日(金) 14時46分18秒
- 震源地: 三陸沖(牡鹿半島の東南東約130km  
付近)の深さ約24km
- 規模: マグニチュード9.0



- 死者数: 15,782名(9月11日時点)
- 行方不明者数: 4,086名(9月11日時点)
- 避難者数: 82,945名(9月6日時点)
- 特徴: 津波、原子力発電事故、計画停電、余震

## 1-2. 震災の特徴①津波

- 死因

- 水死：92.5%
- 圧死・損傷死：4.4%
- 火災による焼死：1.1%
- 死因不明：2%

- 水死の割合

- 岩手県：87.3%
- 福島県：87%
- 宮城県：95.7%

- 死亡者の年齢

- 80歳以上：22.1%
- 70 - 79歳：24%
- 60 - 69歳：19.1%
- 9歳以下、10歳代、20歳代：いずれも4%以下

津波による被害  
・水死  
・主に高齢者



※4月19日の警察庁の発表に基づく

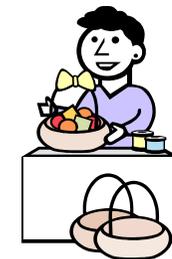
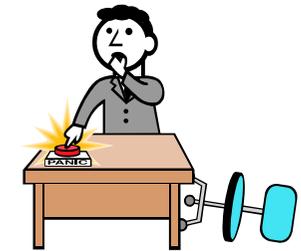
# 1-3. 震災の特徴②原発事故と計画停電

- 福島第一原発
- 国際原子力評価尺度:レベル7  
(チェルノブイリ原発事故以来、2例目の最悪の評価)
- 1号機、2号機、3号機、4号機で事故が発生
- 地域住民の避難
- 放射性物質の漏出
- 食品、水道水、海水、土壌等の放射能汚染
- 風評被害
- 一部食品や生活用品等の買い占め、品薄状態
- 計画停電
- 電力供給力の低下に伴う輪番制の停電
- 節電
- 鉄道の運休、大幅なダイヤの乱れ
- 帰宅困難者、出勤困難者の続出
- 夏の電力不足への懸念



## 2-1. 全日病の主な活動①時系列(4/30時点)

- 3月11日:地震発生
- 3月12日:被災地の会員病院における被害調査開始
- 3月14日:災害対策本部の立ち上げ
- 3月15日:義援金口座の開設  
被災地以外の病院に対し、医療救護班の派遣依頼  
協会ホームページに行政関連情報の掲載を開始
- 3月16日:医療救護班第1陣が宮城県へ出発(6班・計21名)  
四病協として、厚生労働大臣へ震災の影響による  
福祉医療機構の融資に関する要望書を提出  
会員病院からの患者搬送支援要請
- 3月18日:被災会員病院→会員病院への患者搬送支援の完了
- 3月23日:第1回災害対策本部全体会議
- 3月26日:第2回災害対策本部全体会議
- 4月1日:消息不明病院現地調査及び緊急援助物資運搬、  
被災地見舞い・医療救護班陣中見舞い
- 4月9日:西澤会長、岩手県支部長、被災病院(宮城)お見舞い
- 4月25日:気仙沼市の仮設診療所へのPC寄贈及び電子カルテの導入の打合せ



## 2-2. 全日病の主な活動②分野別(4/30時点)

### 災害対策本部

#### 医療救護班

- ・医師、看護師、事務が基本構成
- ・3月16日に第1陣出発
- ・5月1日時点、第73陣(計293名)を派遣済
- ・宮城県、福島県へ派遣

#### 義援金

- ・緊急的および復興支援に拠出
- ・People's Hope Japanからの協力

#### 物資援助

- ・PC300台、プリンター100台
- ・毛布、おむつ等の衛生用品

#### 連絡会議

- ・民主党「被災者健康対策チーム」会議に参加
- ・医療7団体「被災者健康支援連絡協議会」発足と運営

#### 要望・声明

- ・民主党、厚生労働省への要望
- ・四病協として要望
- ・全日病として声明を発表

#### 調査

- ・被災地の会員病院に対する被害調査
- ・病院電力需要状況等調査

### 3. 全日病の声明

去る3月11日に発生した「東日本大震災」で亡くなられた方々のご冥福と、被災した方々の健康の維持と被災地の1日も早い復興を祈願する。また、被災した医療機関、職員を失った医療機関にお見舞いを申し上げます。そして被災されながらも懸命に医療を継続している医療機関、および、被災地を支援する医療機関の奮起に感銘し、仲間として誇りに思う。

また、地震、津波による被害ばかりではなく、原子力発電所事故、ならびにそれに伴う計画停電による、被災地および周辺地域の医療機関の業務停止あるいは制約に対する国の支援を強く要望する。

被災地のみならず周辺地域、さらには、日本国全体が被った直接的・間接的影響はきわめて甚大である。この非常事態に対して、国を挙げて復興に取り組むべき戦略を、早急に検討し国民に明確に提示することを要望する。

ここに全日本病院協会は、その復興に全力を挙げて活動することを宣言する。

2011年3月26日

社団法人全日本病院協会 第96回定期代議員会



# 4-1. 活動①被災地の会員病院の被害調査

- 客体：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、新潟県、長野県の計9県、218病院
- 調査票の送付方法：メールとFAX
- 回答数：202病院/218病院（回答率92.7%）



## 【結果の概要、一部抜粋】

### ①被害の有無

被害はなかった	70	34.7%
被害があった	128	63.4%
無効回答	4	2.0%
計	202	100%

### ②入院患者への被害の有無

被害はなかった	147	72.8%
被害があった	5	2.5%
無効回答	50	24.8%
計	202	100%

### ③職員への被害の有無

被害はなかった	137	67.8%
被害があった	13	6.4%
無効回答	52	25.7%
計	202	100%

### ④建物や医療機器の被害の有無

被害はなかった	61	30.2%
被害があった	90	44.6%
無効回答	51	25.2%
計	202	100%

### ⑤電気の被害の有無

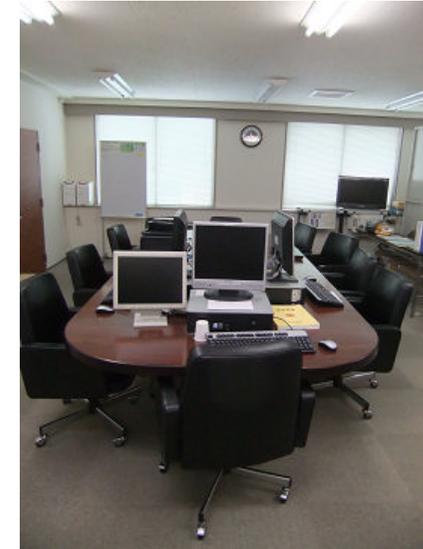
被害なし	61	30.2%
止まった	91	45.0%
止まっている	1	0.5%
無効回答	49	24.3%
計	202	100%

### ⑥被災した患者の受入の有無

受入れはなかった	88	43.6%
受入れがあった	62	30.7%
無効回答	52	25.7%
計	202	100%

## 4-2. 活動②全日病災害対策本部

- 本部長：西澤寛俊(会長)
- 副本部長：安藤高朗副会長【緊急支援担当】  
猪口雄二副会長【広報・情報収集担当】  
神野正博副会長【後方支援担当】  
猪口正孝常任理事【総務担当】
- 他メンバー：総務委員会委員  
救急・防災委員長  
広報委員長
- 全支援活動の掌握
- 医療救護班派遣、物資支援等
- 会員病院の被害状況調査・支援調査の実施
- 被災地病院からの患者受入可能数調査の実施
- 厚生労働省等行政機関との情報連携
- 1日2回の状況報告(10時、18時)
- 臨時会議の招集



▲全日病災害対策本部



▲全日病災害対策本部の臨時会議

## 4-3. 活動③義援金口座の開設

### 【使途：緊急的および復興支援に拠出】

#### ①全日病募金口座：社団法人全日本病院協会

【みずほ銀行】九段支店 普通口座、口座番号：1469363

- 東北地方太平洋沖地震義援金口
- 一口1万円(一口以上でお願いします)

#### ②国際医療支援団体ピープルズ・ホープ・ジャパンPHJ

※同募金は「寄附金控除」の対象

【みずほ銀行】三鷹支店 普通口座、口座番号：1390251

- 口座名：ピープルズホープジャパン

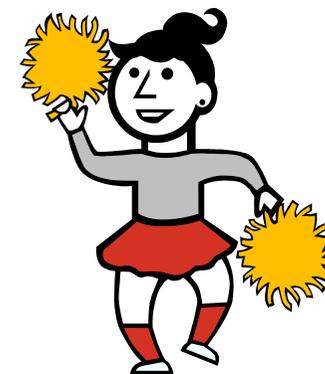
【三菱東京UFJ銀行】三鷹支店 普通口座、口座番号：0064211

- 口座名：ピープルズホープジャパン

【郵便振替】

- 口座番号：00180-9-631068 口座名：ピープルズホープジャパン
- 振替用紙に「東日本大震災」と明記してください

ご支援、ご協力を  
宜しくお願い  
致します！



## 4-4. 活動④医療救護班の派遣と活動

### 【派遣のスケジュール】

- 3月12日：医療救護班を派遣する被災地の調査（石原常任理事）
- 3月16日：医療救護班第1陣（6班・計21名）が宮城県へ出発
- 3月17日：医療救護班第2陣（4班・計19名）が宮城県へ出発
- ⋮
- 5月 1日：医療救護班第73陣（計293名）が活動を終了
- 6月30日：医療救護班第115陣（計487名）が活動を終了

### 【活動内容】

- 避難所の診療、被災病院の応援
- 訪問診療とリハビリテーション（PT、OT含む）
- 除染活動（福島県）
- 患者の広域搬送、受入先の確保
- 医療物資の管理、分配、搬送





▲自衛隊や消防団と合同での気仙沼市災害対策本部での会議  
▼救護活動に取り組む医療救護班



▲山積みになった薬品(向精神剤等を含む)と日用品を分別  
▼除染活動に参加する医療救護班



## 4-5. 活動⑤情報の掲載と連携

### 【協会ホームページ】

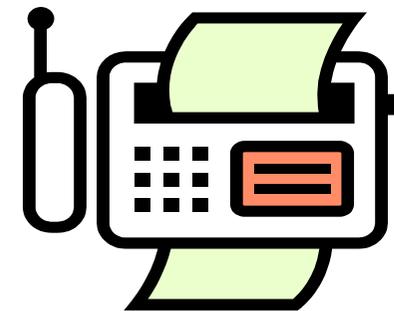
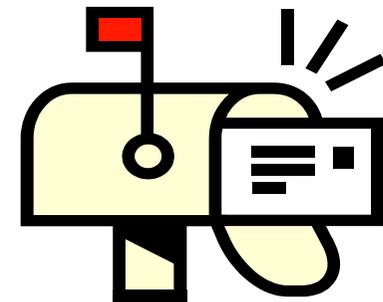
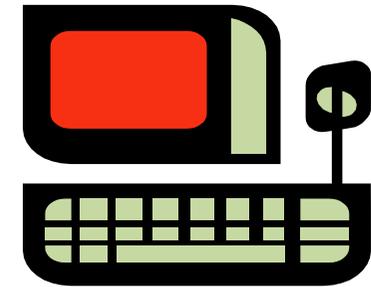
- 医療救護班の派遣状況
- 計画停電に関する情報
- 行政からの関連情報
- 義援金募集のお願い

### 【メール】

- 関係病院に対し、計画停電の連絡
- 被害調査の調査票を送付

### 【FAX】

- 義援金募集について全会員へ連絡
- 被害調査の調査票を送付
- 医師等医療従事者派遣協力の依頼



## 4-6. 活動⑥各種要望(4/30時点)

- 四病院団体協議会「東北地方太平洋沖地震に関わる要望について」(3月16日、厚生労働大臣宛)

⇒福祉医療機構「東北地方太平洋沖地震にかかる災害復旧資金の概(医療貸付)」では不十分の為、更なる援助を要望

【要望例】・増改築資金の融資率は100%(実額)

・貸付期間を最長30年

- 四病院団体協議会「東日本大震災の被災に伴う医療機関の運営に関する要望」(4月28日、厚生労働大臣宛)

⇒被災地以外の医療機関でも、交通の麻痺等によって通常診療に影響が出ているので、大幅な医療法、診療報酬制度上の規制緩和を要望

【要望例】・医療法上の必要医師、看護師数

・入院基本料等の施設基準は努力義務

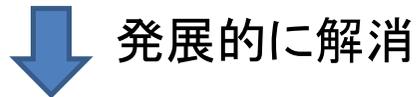
・被災者を受け入れた病棟や病床における日数制限の撤廃



▲岩淵総務課長(中央)に要望する猪口副会長(左)

## 4-7. 活動⑦被災者健康対策チーム 被災者健康支援連絡協議会

- 民主党「被災者健康対策チーム」会議への参加



- 「被災者健康支援連絡協議会」の発足(4/22)と運営

【参加団体】日本医師会、日本歯科医師会、全日本病院協会、日本病院会、全国医学部長病院長会議、日本薬剤師会、日本看護協会の計7団体

【活動内容】

- ①被災現地の医療ニーズに対応した医療チームの中長期的派遣
- ②被災現地の健康ニーズの把握と、被災者の健康確保に必要な取り組み



▲記者会見で挨拶する西澤会長(左から3番目)

## 4-8. 活動⑧視察と物資運搬

- 視察者：猪口正孝災害対策本部副本部長
- 期間：2011年4月1日～3日（3日間）
- 訪問先：宮城県5病院、岩手県3病院、気仙沼救護所
- 活動内容：
  - 被災した病院の被害状況、ライフラインの復旧状況等の視察
  - 必要な支援物資、課題の調査
  - 物資の運搬（経腸栄養剤、オムツ、毛布、注射針等）



▲被災病院への物資運搬



▲被災病院の受付



▲救護所の医療救護班の激励

## 4-9. 活動⑨本部長によるお見舞い

- 視察者：西澤寛俊災害対策本部本部長
- 期間：①2011年4月9日、②4月21日
- 訪問先：①岩手県支部長、宮城県2病院  
②福島県支部長、福島県2病院
- 活動内容：視察、お見舞い金、物資提供



▲岩手県岩淵支部長(右)へ  
お見舞い金を手渡す西澤会長(左)



▲診療記録をドライヤーで乾かす被災病院の職員

## 5. まとめ

- 情報の集約、一元化の課題
- 超急性期～慢性期～心のケアに至るまで、各ステージに応じた支援が必要
- DMAT、JMAT、各医療救護班の棲分けと共棲  
(例:3/22活動終了宣言後、現在も活動を継続するDMAT)
- 医療救護班の派遣にかかる莫大な費用負担
- 交通麻痺等の間接的被害を受けた病院の支援
- 集約された人員の配置、物資の分配
- 援助の届き易い公的病院、届き難い民間病院